

北海道がんセンター通信

2021 第58号 AUGUST



CONTENTS

● 令和3年度の北海道がんセンターの人事異動	院長	加藤 秀則	……	2
● 臨床研究部長就任のご挨拶	臨床研究部長	大泉 聡史	……	2
● 教育研修部長 就任のご挨拶	教育研修部長	藤堂 幸治	……	3
● 看護部長着任のご挨拶	看護部長	工藤 千恵	……	3
● 各科トピックス				
「形成外科」	形成外科医長	齋藤 亮	……	4
「消化器外科」	消化器外科医長	前田 好章	……	5
「臨床検査科」	臨床検査技師長	灘 雅雄	……	6
● 薬剤部のご紹介〈No.2〉	薬剤師	高田 慎也	……	7
● 新人看護師研修の紹介	教育研修係長	近 麻美	…	8・9
● 着任医師のご紹介				10
● 着任のご挨拶	患者総合支援センター地域医療連携室係長	前田 裕美	……	11
● 「北海道がんサポートハンドブック2021」が発行されました				11
● オンライン患者サロンのお知らせ				11
● がん検診のご案内				12

北海道がんセンターの理念
私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。
(基本方針)

- 1 北海道がん診療連携拠点病院の使命を果たします。
- 2 常に医療の質と技術の向上を目指します。
- 3 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
- 4 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 5 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

令和3年度の北海道がんセンターの人事異動

院長 加藤 秀則



がんセンターの病院長という立場を抜きにした客観的な感想で、自画自賛では決して無いとしてお読みください。

私自身、北海道がんセンターに16年前に赴任するまでは、道内外の様々な病院で多くのスタッフと共に仕事をしてきました。その上で思うことは当院のスタッフが皆仕事の遂行が早く、正確で、かつ真面目であり、総合的に非常に優秀であるということです。

何故かと考えてみました。まず一つは看護師の受けてきた教育が均質であり水準が高いため、実際に患者さんに接する態度、看護も優秀と思います。これは多くの看護師が旧国立病院系の看護学校で良い教育を受け、国立病院に就職し先輩たちに伝統的に良い指導を受けてきたことが大きいと思います。また薬剤師、放射線技師、検査技師、理学療法士、栄養士といった病院を支える技師も非常に粒ぞろいで、多くは新人の頃から国立病院機構の中で均質な教育を受け、かつ同じ国立病院の中でも様々な個性のある病院を転勤し切磋琢磨されたためと思います。医師も大学病院でスタッフとして研究する傍ら、市中病院で技術を磨いてきたものが多く臨床に研究にバランスが取れていると感じます。

という風に感じていますが、個人や組織は向上心がなくなるとすぐ悪い方に流れます。この良い面をさらにスタッフ一同努力し維持してゆきたいと思います。

唐詩選という漢詩を編纂した本の中に、「年年歳歳花相似たり 歳歳年年人同じからず」という有名な一節があります。花は昔と同じように毎年咲いてゆくけれど、人は毎年去っていき変わってゆくものだという事です。その中で良い伝統を残したいと思います。均質で良いということを申し上げましたが、多様性のある現代ですからそれに拘らず、様々なバックグラウンドを持った職員が加わり更に発展していけたら良いなと思っています。

臨床研究部長 就任のご挨拶

臨床研究部長 大泉 聡史



本年4月より臨床研究部長に就任させていただきました大泉聡史と申します。この場をお借りまして就任のご挨拶をさせていただきます。

最近になって、各臓器のがんの診断および治療は大きな変遷を遂げてきました。診断面ではがんゲノム医療が保険償還され、新たな作用機序をもつ薬剤の開発も各領域で進んでおり、当院での治験の受諾数も多くなっています。また新臨床研究法の施行もあり、簡単に自主臨床研究に着手できなくなった現在、どのように本当に価値のある臨床研究をすすめていくかが問われています。

このような状況において、多職種間でのチーム連携がより重要になっています。施設としての臨床研究の発展のためには、医師のみの研究だけではなく、看護師や薬剤師を始め、様々な職種での臨床研究を推進していくことが、施設全体としての臨床研究の活性化につながると信じています。

今年に入ってから、新型コロナウイルス感染が通常の日常診療はもちろんのこと、研究面にも暗い影を落としており、多くの臨床研究が影響を受けています。このように多くの課題や障壁がある中で、自分がどのように北海道がんセンターの臨床研究に貢献できるのかを常によく考えて、臨床研究部長としての責務を果たしていく所存であります。

今後とも皆様には多々ご指導をいただくかと存じますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育研修部長 就任のご挨拶

教育研修部長 藤堂 幸治



このたび教育研修部長に就任した藤堂幸治です。

2008年6月に当院の婦人科医長として赴任以来13年間が経ちました。その間の取り組みをご紹介することでご挨拶とさせていただきます。

私の目標は、婦人科腫瘍の臨床分野において、当科を自他ともに認める国内のオピニオンリーダー/ハイボリュームセンターへと押し上げることでした。そのためには患者数確保だけでなく、常にup-to-dateな診療を実践すること、研究面で成果を発信することが重要でした。

赴任当時は有力な開業医の先生方と『勉強会』を通じて親睦を深め、患者数確保に動きました。診療面ではレーザー治療からロボット手術に至るまでの幅広い領域で標準治療以外の所謂オプションな診療を充実させました。

研究面では2009年4月から北海道大学医学研究科客員准教授（連携大学院准教授）として活動を行っており、北海道大学の大学院生に対して学位論文および副論文の作成指導を行ってきました。英文原著73編（筆頭著者19編、第2著者24編、その他30編）、英文症例報告11編、英文総説8編、和文41編の業績を上げ、中でも2010年にLancet誌に筆頭論文が受理されたことで、日本産科婦人科学会学術奨励賞の受賞、海外からの招待講演に繋がりました。

最近ではロボット広汎子宮全摘術やセンチネルリンパ節ナビゲーション手術で国内の注目を集めており、種々の学会/研究会で教育講演やシンポジストの依頼を受けています。こうした経験を新しい仕事の中で活かしていけたら良いと思っています。不慣れな業務で周囲の皆様にはご面倒をお掛けすることも多いと思いますが、今後ともご指導のほどを宜しくお願い申し上げます。

看護部長 着任のご挨拶

看護部長 工藤 千恵



この度、4月1日付で国立病院機構旭川医療センター看護部長より配置換となり着任しました工藤と申します。よろしくお願いいたします。

北海道がんセンターには、「国立札幌病院」のときに1年半ほどの在籍でしたので、かなり久しぶりとなりました。病院建物も新しくすべてが新鮮で楽しみのなか、看護部長して責任の重さを痛感しながら日々います。

私自身は旭川医療センターで呼吸器内科、消化器内科とがん化学療法、放射線治療、疼痛緩和を受ける患者さんへの看護の経験があります。治療は進歩し私自身の経験は小さなものですが、がん専門病院の看護師育成には思いがあります。当院の看護師には患者さんが安全に治療を受けていただく、また治療継続のための心身のケア、意思決定支援、緩和ケアと患者さんに向き合い寄り添うために、患者さんの思いを大切にできる看護師であってほしいと願っています。医療的知識・技術はもちろん、人として豊かな心を持ち向き合うことが重要だと思っています。

病院の新しい玄関・駐車場が完成します。明るい日差しが入り解放感を感じる外来ホールとなります。もう少し工事が続きますがご理解とご協力をお願いいたします。

「形成外科のご紹介」



形成外科医長
齋藤 亮

形成外科という診療科を聞いたことがない方や、聞いたことはあるけれどどんな病気を治すのか、よくわからない方は多いと思います。日本に形成外科が登場してから既に半世紀以上が過ぎているにも関わらず、認知度は決して高くはありません。

形成外科は眼科、耳鼻科、消化器科など他の多くの診療科とは異なり、特定の臓器の病気を対象としているわけではありません。形成外科とは、なんらかの原因によって身体に生じた組織の異常や変形、欠損、あるいは整容的な不満足に対して、外科的技術を使って、機能や形態の改善を目指し、みなさまの生活の質“Quality of Life”の向上に貢献する、外科系の専門領域です。形成外科医が持つ代表的な技術には“植皮術”“皮弁手術”“マイクロサージャリー”などがあります。

“植皮術”とは、皮膚移植のことです。傷とは離れた部位（大腿部、腹部、臀部など）から薄い皮膚を採取し、皮膚が足りない部分に移植します。けがややけどの治療として行うことがあります。当院では主に腫瘍を切除したあとの組織欠損に対して行っております。かなり大きな組織欠損を治療することができますが、骨や腱の上、あるいはプレートなど人工物の上には移植することができません。そのようなときは“皮弁手術”を行います。

“皮弁手術”は、血流のある皮膚・皮下組織や深部組織を組織欠損部へ移植する方法です。この方法には、血管をつけたまま移動する“有茎皮弁術”と、血管を切り離してマイクロサージャリーによる吻合を必要とする“遊離皮弁術”があります。形成外科医にとって皮弁手術は普段から慣れ親しんだ技術ではありますが、当院では骨軟部腫瘍科における軟部肉腫切除後の再建や乳がん術後乳房欠損における再建術などにおいて数多く行っております。

“マイクロサージャリー”とは、手術用顕微鏡下で行う手術のことで、主に血管吻合のことを指します。直径1～2mm程度の血管を扱います。“遊離皮弁術”には必須な技術です。当院では腫瘍を切除したあとに生じた組織欠損を再建するために、主治医診療科と協力し、“遊離皮弁術”を行っております。また、頭頸部外科による耳下腺がんの手術の際に、マイクロサージャリーの技術を使って顔面神経縫合を行うこともあります。さらに乳がんや婦人科がんの手術後に生じたリンパ浮腫に対する外科的治療にリンパ管細静脈吻合術という方法があります。むくんだ部分のリンパ管を静脈に吻合し、うっ滞したリンパ液を流そうというものですが、これも“マイクロサージャリー”の技術を使って行っております。

当科は2001年の開設以来、日常的に他診療科とチームサージャリーを行っており、それが当科診療の中心となってきました。これからも外科系診療科と協力し、がん診療を支えたいと思っております。

消化器外科

「北海道がんセンター 消化器外科」

前田 好章、皆川のぞみ、正司 裕隆、小林 正幸、山本 啓一朗

北海道がんセンター消化器外科は、現在5名のスタッフで診療を行っています（写真1）。若くエネルギーあふれるチームですが、臨時手術をふくむすべての手術に日本外科学会専門医・指導医が参加し、安全性の高い体制をとっています。最近では腹腔鏡手術が増加しておりますが、当科には2名の日本内視鏡外科学会技術認定医がおり、質の高い腹腔鏡手術を提供しています。

がんセンターとして、専門性および安全性の高い手術を行っており、胃がん、大腸がん、食道がん、膵がん、肝臓がん、胆道がんのほか、肉腫などの希少がんの手術も経験豊富です。

大腸がんでは、腹腔鏡手術手技の向上・安定にともない、現在では約95%の患者さんに腹腔鏡で手術を行っています。当科では、腹腔鏡手術はただ単にキズを小さくする目的ではなく、拡大視効果のより手術清度の向上に寄与すると考えています。図1を御参照いただくと、当科において技術の進歩に伴い高難度な手術まで腹腔鏡手術をすすめてきた経緯を御理解いただけるかと思えます。

2019年から皆川医長を中心に、胃がんに加え直腸がんに対してもda Vinciシステムを使用したロボット手術を開始しています（写真2）。ロボット装置の多関節機能鉗子により、通常の腹腔鏡手術では施行できない角度での難しい剥離・郭清操作が可能で、肛門温存率・局所制御のさらなる向上に寄与すると期待しています。最新鋭の手術を御希望の患者さんがおられましたら是非御紹介お願いいたします。

患者さんの御紹介をいただく際には、初診時の待ち時間短縮のため、なるべく医療連携室を通じた事前予約をお願いしておりますが、急ぎの場合等では、消化器外科医師（前田or皆川）あてに直接お電話をいただければ直ちに対応させていただきます。御遠慮なく御連絡ください。

がんセンターの消化器外科ではありますが、胆石症、ヘルニア、虫垂炎、等の良性疾患の手術も多数行っており、きちんと対応させていただいておりますので、御紹介いただけると幸いです。

（文責 消化器外科 医長 前田好章）

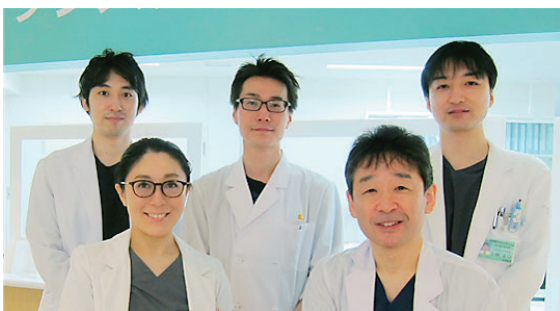


写真1

山本啓一朗 正司裕隆 小林正幸

サフキーフ 皆川のぞみ
キーフ 前田好章

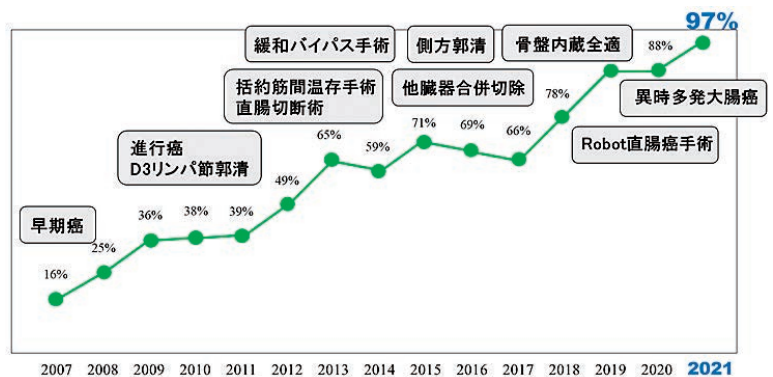


図1 大腸がん手術における腹腔鏡施行率
（北海道がんセンター消化器外科）



写真2
ロボット直腸がん手術

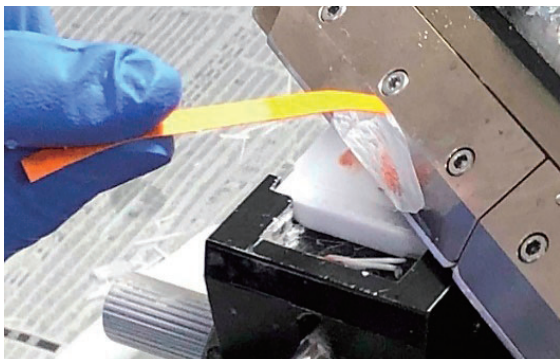
「病理検査について」

臨床検査技師長
灘 雅雄

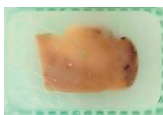
本年4月より東北の山形病院から当院に赴任いたしました臨床検査技師長の灘と申します。前任地の山形はまさにフルーツ王国でさくらんぼ、梨、柿、ぶどうなど本当に安くて美味しいものばかりでした。

それでは、臨床検査科の紹介として、今回は病理検査をクローズアップしてお話させていただきます。

病理検査室では、病理組織検査、細胞診検査、病理解剖などを実施しており、当院では3名の病理医と8名の臨床検査技師が診断に貢献しています。



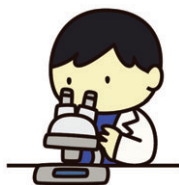
薄切の様子



パラフィンで固められた標本ブロック



完成した標本



病理組織検査は手術で摘出した臓器や内視鏡検査等で採取した少量の組織から臨床検査技師が標本を作製し、病理医が顕微鏡を用いて診断を行います。病理組織標本は、病理医が摘出臓器の一部を細かく切り、パラフィン（ろう）で固めます《標本ブロック作製》。作製したブロックを4 μ m（1mmの250分の1の薄さ）にスライスしスライドガラスに貼り付けます《薄切（はくせつ）》。標本は様々な色素を用いて色付けされ《染色》、ここで標本が完成します。これらを病理医が顕微鏡で観察し診断します。

病理組織検査の中でも、術中迅速診断という、手術中に組織の一部を摘出してすばやく標本作製し診断を行う検査も実施しています。この検査は手術の方針を決定する重要なもので、スピード（迅速性）と正確性が求められる検査です。

細胞診検査は生体の一部（喀痰や尿など）から標本を作製し、顕微鏡を用いて診断を行います。病理組織検査とは異なり薄くスライスする工程はなく、材料をスライドガラスに直接塗りつけるなどして標本を作製します。こちらも標本は様々な色素を用いて色付けされ《染色》、ここで標本が完成します。

標本の観察は、臨床検査技師の中でも専門の認定資格をもった細胞検査士が行い、悪性の疑いがある場合は病理医（細胞診専門医）が最終診断を行います。病理組織検査と比較して、細胞診検査は体への負担が少ないため、がん検診などに用いられています。

また当院は、がんゲノム医療拠点病院に指定されています。がんゲノム医療とは遺伝子を検査する方法で、がんの組織からDNAを抽出し、一度に100以上の遺伝子の変化を分析して治療効果が期待できる薬剤を優先的に使用する方法《コンパニオン診療》です。病理検査室では、遺伝子検査用の標本の作製も行っています。

薬剤部のご紹介

[薬剤師外来] 開始しました

はじめに

近年、新しい医薬品の開発や進歩や薬物療法の進歩によって、より高度な抗がん剤治療や緩和薬物治療を外来で行うことが可能となってきました。経口薬でありながら、注射剤と同等以上の効果を持つ治療薬も多く、これまで以上に服薬アドヒアランスの向上が重要となっています。このため、北海道がんセンター薬剤部においても、がん薬物療法に関する専門知識を学んだ専門薬剤師、認定薬剤師が外来治療中の患者さんに積極的に介入するために、2021年4月より「薬剤師外来」の活動を開始しました。

薬剤師外来は、「薬剤師が外来患者さんの個々の治療に継続的に関わり、薬物療法の最適化や治療の有効性と安全性の向上に取り組んでいくことを目標としています。



外来患者さんへの薬剤師によるサポート

現在、外来で治療されている患者さんに対してこのような経口抗がん薬で治療を行っている方を対象とした「薬剤師外来」の他に、「外来治療センター」において点滴治療を行っている患者さんに対しては副作用の確認や薬剤の薬効や注意すべき点についての説明などを行っています。

薬剤師外来の内容

医師の受診予約の15～30分前に薬剤師外来の予約を入れ、採血結果の待ち時間を利用して面談をしています。現在、3科（消化器内科、乳腺外科、泌尿器科）で処方される経口抗がん薬が対象となります。

初回は、処方後に経口抗がん薬の「飲み方（スケジュール）」や「副作用」に関する説明を行います。2回目以降は、「副作用の発現状況」、「副作用対策薬の使用状況や効果」、「抗がん薬の服用状況」、「日常生活での注意点」などについて薬剤師が面談し、必要な副作用対策薬や生活上の工夫などを説明します。このような面談の結果から必要な薬剤等を医師に提案しています。

特に、抗がん剤の治療を維持していくため、副作用による不安や苦痛を解決する方法を患者さんと一緒に考えていきます。

また、薬剤師外来では、自宅での困った時の対応策として、電話、メール相談も実施し、患者さん個々にあった服薬指導や関わりを通じて、安心して治療に臨めるようサポートしていますのでよろしくお願い致します。

（報告：薬剤師 高田 慎也）

新人看護師研修の紹介

北海道がんセンター看護部は、今年度新人看護師を50名迎え入れ新たなスタートをきりました。入職して3カ月が経過し、現在は見習いで夜勤勤務も開始しています。新人看護師は毎日元気いっぱい！笑顔で頑張っています。教育研修部で行っている新人看護師研修について3つご紹介します。

まずは「新人看護師静脈注射研修」について紹介します。がん専門病院の特徴として、抗がん剤や麻薬、ハイリスク薬剤など、取り扱いが難しい薬剤が多く、私たち看護師はこのような薬剤を医師の指示のもと、正確に、安全な手技で患者さんへ投与することが求められます。

新人の看護師静脈注射研修を充実させることで、臨床で安全に静脈注射が実施できることを狙いとしています。そこで「静脈注射を安全に実施するために必要な知識と技術を習得する」を目標に、注射薬の混合、留置針の留置、ポート針の穿刺、精密機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ）の取り扱いなどの静脈注射研修を計8回実施しました。さらに、演習後、静脈注射に関する確認方法や技術をチェックし合格してから臨床で実践につなげていくこととしています。

また、演習のほかにも、講義や動画などで薬の作用・副作用などの知識を修得させ、正確に判断できる看護師の育成に力を入れています。

「看護倫理研修」では、多様な価値観や信条を持つ対象へのかかわりなど、看護師としての姿勢について学び、グループワークを行いました。研修生同士で意見交換し、患者を尊重すること看護師の誠実な姿勢とはどういうことかを考え、看護師がもつべき倫理について学びを深めました。

「がん看護研修」では、がん患者さんや家族の思いを知り、どんな看護を実践したいか考えました。苦痛がある患者さんに寄り添い援助すること、患者さんの意思決定を尊重すること、退院後の生活を見据えて看護することなどたくさんの意見を共有しました。



静脈注射研修の様子



静脈注射技術チェックの様子

新人看護師たちは、看護を必要とする人へのこもった優しい看護と確かな技術を提供できるように日々学習し、私たち教育研修部を中心とした全看護職が一丸となってサポートしています。

(報告：教育研修係長 近 麻美)

新人看護師の声



松田 亜美

コロナ禍に伴い看護学校での臨床実習が出来なかったため、新人看護師として働くことはとても不安がありました。

しかし、段階を踏まえた新人研修の他に、がん看護に特化した講義も多いため、とても勉強になり患者さんのために頑張ろう！と日々成長できるよう歩んでいます。



菊川 翼

新人研修を受講して、講義だけでなく実技も行うことで、自分はどこができてどこが苦手なのかを知ることができました。

グループワークもあり、話し合うことで自分になかった考え方を知ることができると視野が広がり、日々の看護にいかしていきたいと思います。



山崎 琴葉

研修では、病棟でよく行われる技術を先輩たちに丁寧に指導してもらい、実際に演習をしているため、日々の業務においても研修で学んだことを活かすことができ、自信に繋がっています。

先輩ナースのように根柢をもって看護できるよう、勉強していきたいと思います。

着任医師の紹介

①名前・ふりがな ②略歴・資格

婦人科

- ① 鈴木 裕太郎 すずき ゆうたろう
 ②日本産科婦人科学会 専門医、日本産科婦人科学会 産婦人科専門医、日本がん治療認定医機構 がん治療認定医



泌尿器科

- ① 武田 浩貴 たけだ ひろき



血液内科

- ① 高橋 文彦 たかはし ふみひこ
 ②日本化学療法学会 抗菌化学療法認定医、日本医師会認定産業医、インフェクションコントロールドクター、医学博士



呼吸器内科

- ① 嘉島 相裕 かしま まさひろ



消化器外科

- ① 正司 裕隆 しょうじ ひろたか
 ②日本外科学会 外科専門医、日本消化器外科学会 消化器外科専門医、日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会 消化器病専門医



消化器外科

- ① 山本 啓一郎 やまもと けいちろう



骨軟部腫瘍科

- ① 川江 雄太 かわえ ゆうた



呼吸器外科

- ① 槇 龍之輔 まき りゅうのすけ
 ②日本外科学会 外科専門医、医学博士



頭頸部外科

- ① 滝沢 亮介 たきざわ りょうすけ



放射線治療科

- ① 湊川 英樹 みなとがわ ひでき
 ②日本放射線腫瘍学会・日本医学放射線学会 放射線治療専門医



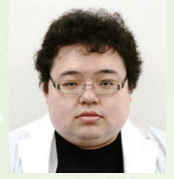
放射線治療科

- ① 高階 力也 たかしな りきや



放射線診断科

- ① 吉川 仁人 よしかわ まさと
 ②日本医学放射線学会 放射線診断専門医



放射線診断科

- ① 田中 七 たなか なな
 ②日本医学放射線学会 放射線診断専門医



口腔腫瘍外科

- ① 栗林 和代 くりばやし かずよ
 ②日本口腔科学会認定医、日本口腔外科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医



よろしくお願い致します



着任のご挨拶

このたび、4月1日付けで患者総合支援センター地域医療連携室係長に着任いたしました前田裕美です。

当院、患者総合支援センター地域医療連携室では係長1名（看護師長）を含む看護師7名と事務助手3名が前方連携（病医院から紹介された初診患者が受診する際の予約受付業務）、後方連携（他院への紹介予約、退院支援）を行っております。

急ぎの受診の際は医師と連携を図り早期受診に努めております。また新規入院患者さん、手術予定患者さんの入院前問診を行い、MSWと連携し早い段階での退院調整を心がけております。

当院のようながん拠点病院で専門的な治療を受けた後、遠方からの通院患者さんの負担軽減のために地域の医療機関と連携を図っております。コロナ下で顔の見える関係作りが難しくなっておりますが近隣の医療機関、在宅医、介護施設との関係をより一層深め、患者さんのために今後も医療連携をスムーズに運べるようにスタッフ一同励んでまいりますので、引き続きご協力の程よろしくお願い申し上げます。



地域連携室メンバー（前田=前列右から2番目）

「北海道がんサポート ハンドブック2021」 が発行されました！

毎年発行している「北海道がんサポートハンドブック」の2021年度版が完成しました。

がんと診断された患者さん、ご家族が活用できる相談窓口の紹介の他、様々な情報を掲載しております。がん診療連携拠点病院、北海道がん診療連携指定病院や各市町村役場に配布しているほか、北海道や当院ホームページからも閲覧、ダウンロードできますのでご確認ください。

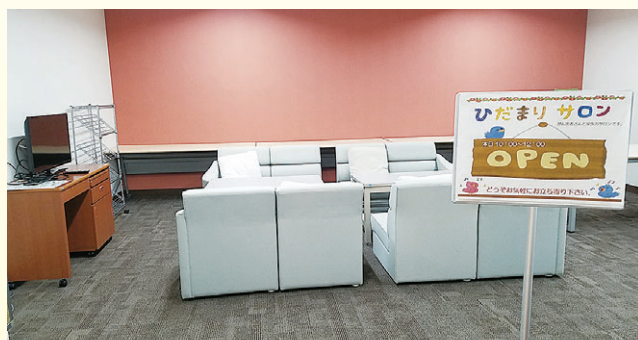


●ご希望の医療機関には郵送してまいりますのでお問い合わせください。

オンライン患者サロンのお知らせ

当院では2020年7月より以下のオンライン患者サロンを開催しています。

- 乳がんオンラインサロン（毎月第3木曜日 13:30～14:30）
対象者：乳がんの患者さん（院内・院外問いません）
- 卵巣がんオンラインサロン（毎月第3火曜日 13:30～14:30）
対象者：卵巣がん患者、体験者の方（院内・院外問いません）
- ピアーズサロンオンライン（毎月第2金曜日 14:00～15:00）
対象者：おおむね40歳代までのがん患者の方
（院内・院外問いません）
- ひだまりオンラインサロン（毎月第2水曜日 10:00～11:00）
（毎月第4金曜日 13:30～14:30）
対象者：がん患者さん、ご家族、体験者などどなたでも
（院内・院外問いません）



申込方法はメールで 北海道がん総合相談支援センター
〈100-mb05gas2@mail.hosp.go.jp〉 まで
サロン開催日の4日前までにお申込み下さい。

当院に受診されていない方でもご参加可能ですので、対象の方や興味ある方がいらっしゃいましたらご紹介お願いいたします。

北海道がんセンター がん検診のご案内

完全予約制

● 4大がん検診

- 腹部エコーにより肝臓を中心に観察
 - 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
 - 便潜血反応による大腸がんスクリーニング
 - 低線量CTによる肺がん検診
- 毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

● 腹部3大がん検診

- 腹部エコーにより肝臓を中心に観察
 - 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
 - 便潜血反応による大腸がんスクリーニング
- 毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

● 低線量肺がんCT検診

一般的な肺CTよりも少ない被ばくでCTが受けられます。
月～金曜日 ①12:00 ②15:00

● 乳がん検診

マンモグラフィによる検診
（エコーなどのオプションもあります）
毎週 火曜日・金曜日 14:30～

● 婦人科がん検診

子宮頸がん・子宮体がん検診
（エコーなどのオプションもあります）
毎週月曜日 9:00～
毎週木曜日 14:30～

● 前立腺がんのPSA検診

採血後2時間以内に泌尿器科医師より結果とその後の指示を受けられます。
完全予約制/月・木曜日 11:00

● 大腸がん検診

当院では予約日に消化器内科医師より直接検診結果を聞くことができます。
完全予約制/月～金曜日 14:00～

● 胃がん内視鏡検診

専門的な知識と技術を備えたスタッフが対応させていただきます。
完全予約制/毎週金曜日 ①9:00 ②9:20 ③9:50

● PET検診

全身を一度に調べることができます。
平日/月曜日～金曜日 10:30

予約受付センターの受付時間：毎週 月曜日～金曜日
電話による予約 13:00～16:00 / 窓口による予約 9:00～16:00

患者さんの権利

1. 人格が尊重され、良質な医療を平等に受ける権利があります。
2. 十分な説明を受け、自分が受けている医療について知る権利があります。
3. 自らの意思で、医療に同意し、選択し、決定する権利があります。
4. 個人のプライバシーが守られる権利があります。

患者さんの責務

1. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さん自身に関する情報を正確に提供してください。
2. 納得出来る医療を受けるため、良く理解出来なかった説明については、理解出来るまで質問してください。
3. 他の患者さんの医療及び職員の業務に支障を与えないようにご配慮下さい。

患者さんへのお願い

院内の取り決めを守り、病院職員と協同して医療に参加、協力することをお願いします。

独立行政法人 国立病院機構

北海道がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院

〒003-0804
北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54
代表 院 TEL (011) 811-9111
FAX (011) 832-0652
ホームページ
<https://hokkaido-cc.hosp.go.jp/>

QRコード→



● 相談窓口

がん相談支援センター
直通電話 (011) 811-9118
地域医療連携室
直通電話 (011) 811-9117
直通FAX (011) 811-9110
メールアドレス 100-mb05gas1@mail.hosp.go.jp

交通のご案内



【地下鉄】 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩3分

【自動車】 病院裏の仮設駐車場をご利用いただけますが、台数に制限がございますので、来院の際はできるだけ公共の交通機関をご利用下さい。